

未確認ハンバーグ弁当

絵・よしだちなつ

作・日向理恵子



かーさんの腕はしましまだ。

「おかーさんのお手々、どうしたの？」

三歳とか四歳とかの小さいころには平気でそんなことを聞いていたけど、わたしももう小学五年生だ。かーさんの腕のしましまの傷跡が、気軽に話題にしていいものじゃないということくらいはわかる。かーさんが年じゅう長袖で隠しているから、人に話しちゃいけないってことも。

うちは商店街にある小さいお弁当屋で、父さんは車で配達中。かーさんはエプロンをつけて、いつもひまそうにカウントーの内側に立っている。

日曜日の午後、わたしが友達と出かけてくると言うと、かーさんはお弁当のショーケースを兼ねたカウントーのむこうから手をふった。

「いつてらっしゃい。あーちゃん、気をつけてねえ」

あやめ、という名前を、いつまでも「あーちゃん」と呼ぶの、そろそろやめてくれないかな。

『合衆国ワシントン上空に滞在中の、正体不明の巨大飛行物体から、先ほど何が飛び立ったという情報がたったいま伝えられ……』

店のラジオが、つまらないニュースばかり流している。

友達と遊ぶんだ、と言ったけれど、あれはウソだ。親が自営業だと土日なんて関係ないけど、友達はそうじゃない。みんな、塾や習い事やお出かけで忙しい。家に閉じこもっていても仕方ないので、こうして夕方近くまでぶらぶら歩きまわるのだ。